

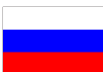
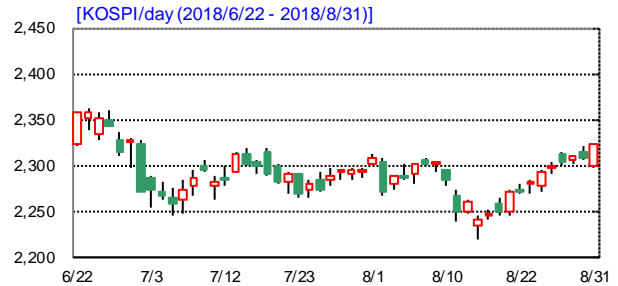


【韓国】 総合指数は週間で 1.3%高と続伸、今週は米通商交渉の進展が材料

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.3%高と続伸。週を通じて、北米自由貿易協定 (NAFTA) 再交渉の進展が世界的な貿易摩擦を和らげるとの期待から買いが入り、相場を押し上げた。30 日は中国株安が嫌気され、10 営業日ぶりに小反落したものの、31 日にはすぐに反発し、6 月 29 日以来約 2 カ月ぶりの高値で引けている。個別では、時価総額が大きいサムスン電子やバッテリーのサムスン SDI、新韓金融持ち株会社が週ベースで上昇し、相場をけん引した。半面、ポンペオ国務長官が北朝鮮訪問を中止したことで、北朝鮮関連銘柄とされる韓一現代セメント、プサン工業、ソンシンセメントが下げた。今週は、米国の通商交渉と米株式相場を材料とする売買が膨らみそうだ。米政権の姿勢次第で北朝鮮リスクも意識される可能性もある。

▼指数チャート

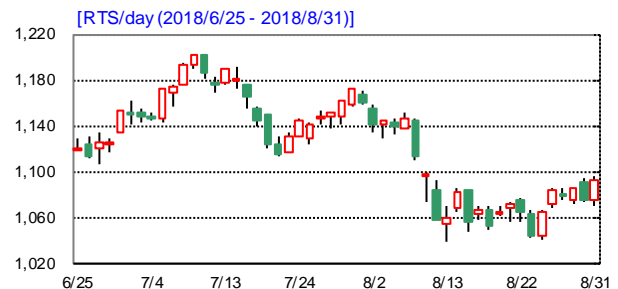


【ロシア】 RTS 指数は週間で 2.6%高と続伸、今週も原油相場の動向が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.6%高と続伸。米国による対ロ追加経済制裁が相場の重しとなった半面、堅調な原油相場が好感された。週明け 27 日は 1.8%高と上昇。米国による対ロ追加経済制裁が予定通り発動されたが、前週に 2016 年 4 月以来の安値まで下落した通貨ルーブルの反発やブレント原油の高値圏での推移が好感された。天然ガスのノバテクが前週末比 5%超値上がりしたほか、時価総額 2 位のズベルバンク・オブ・ロシアが大幅に上昇し、指数を押し上げた。その後はルーブルや原油相場をにらんでもみ合ったが、31 日はアルゼンチンペソなどの新興国通貨が安値から切り返したことも支援となり、指数は 8 月 9 日以来の高値水準で取引を終えた。今週は原油相場の動向や米国による対ロ経済制裁が引き続き焦点か。

▼指数チャート



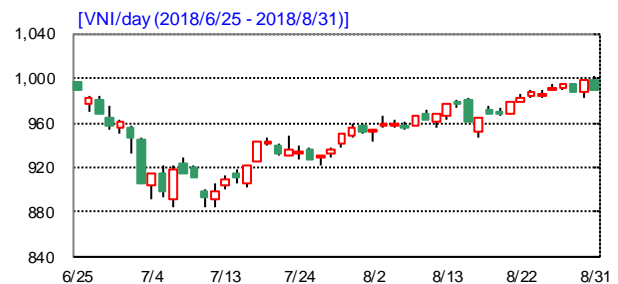
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.3%高と 7 週続伸 今週は貿易問題で神経質な展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は 0.3%高と 7 週続伸。米国の緩やかな利上げ見通しを背景にした資金流出懸念の後退や米国株の堅調な推移が好感された。指数は週初の 2 日間で 0.8%高と堅調スタート。29 日は 0.7%安と反落したが、30 日は 1.0%高と反発。31 日には一時 6 月 18 日以来、初めて 1000 ポイントを上回った。その後は利益確定売りに押され、前日比 0.9%安と反落したが、週間では 2.49 ポイント高の 989.54 ポイントで終え、続伸となった。飲料のサイゴン・ビール (6.1%高)、保険のパオベト・ホールディング (5.0%高)、食品のマサン・グループ (4.9%高) などが指数を押し上げた一方、不動産のヴィンホームズ (6.7%安)、食品のビナミルク (3.4%安) などが重しとなった。今週は米国株や貿易摩擦問題をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート

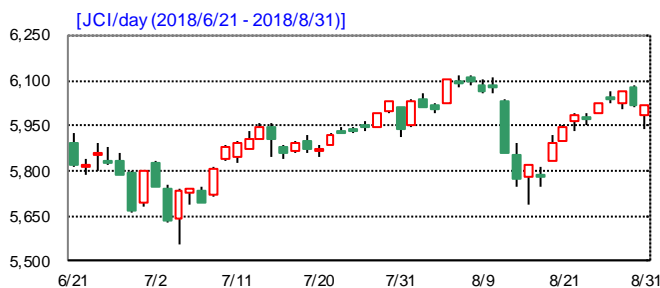


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%高、今週は 8 月の CPI に対する市場の反応が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 0.8%高と続伸。8 月月間では 1.4%高。先週は前半の上昇が奏功した。27 日はテレコムカシ・インドネシアが指数上昇をけん引し、終値ベースで 9 営業日ぶりに 6000 ポイントを回復。その後も 29 日までじりじりと上値を広げたが、週後半は米ドル高・ルピア安が嫌気され、30 日に反落し、31 日も小幅に続落した。中央銀行は 8 月に通貨防衛を目的として今年 4 回目の利上げを実施しており、今週は 3 日に発表された 8 月の CPI に対する市場の反応が焦点。中銀は為替介入も継続している。外部要因では、貿易摩擦を巡る米国による中国への第 3 弾の制裁発動に向けた動きが注目される。

▼指数チャート

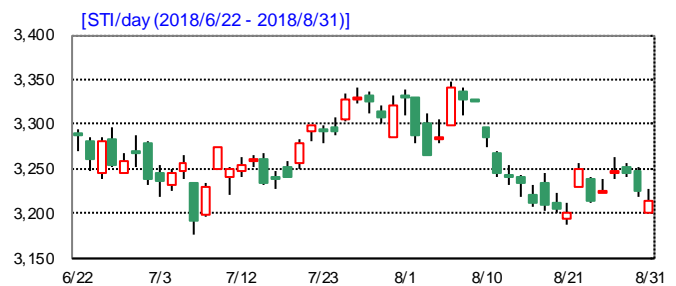


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は 0.01%高、今週は 8 月の製造業 PMI が焦点

スเตรツタイムズ指数は週間で 0.01%高とほぼ横ばい。8 月月間では 3.2%安。先週は週末の下落が上昇分を帳消しにした。週初の 27 日は、パウエル FRB 議長が前週末の講演で、インフレ率が 2%付近まで上昇するものの、利上げペースは加速しないとの見方を示したことが好感され、指数は反発。28 日は金融株が買われて続伸したが、29 日に反落すると、30 日は 7 月の銀行融資残高が前月を下回ったことが嫌気され、続落した。31 日も買い材料に乏しく、結局 3 日続落して引けた。今週は 3 日の取引終了後に 8 月の製造業 PMI が発表される予定で、7 月まで 4 カ月連続で下落した指数が上昇に転じれば好材料。

▼指数チャート

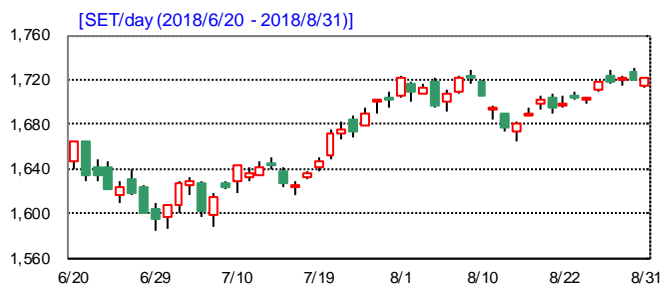


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%高、今週は 8 月の消費者信頼感指数に期待

SET 指数は週間で 1.0%高と続伸。8 月月間では 1.2%高。先週はおおむね堅調に推移した。週初の 27 日は原油価格の上昇を受けてエネルギー株が買われ、指数は反発してスタート。28 日は 7 月の鉱工業生産が前年同月比 4.6%増と市場予想から上振れたことが好感された。29 日も買い優勢の展開が続いたが、30 日は反動で消費関連株を中心に売りが出て 4 日ぶりに反落。ただ、31 日は小幅ながら反発して取引を終えている。今週は 3 日発表の 8 月の CPI に対する市場の反応が焦点となるほか、6 日に発表される 8 月の消費者信頼感指数が 13 年 5 月以来の最高値に達した前月の 82.2 を上回れば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート

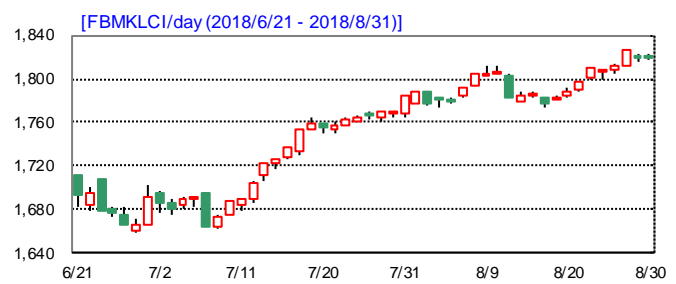


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%高、28 日に 3 カ月ぶりの高値更新

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.6%高と続伸。8 月月間では 2.0%高。先週は前半の上昇が指数を支えた。週初の 27 日は、前週末の米株相場が上昇した効果で反発。28 日は北米自由貿易協定 (NAFTA) 再交渉で米国とメキシコが基本合意に達したことが好感され、指数は終値で約 3 カ月ぶりの高値を更新した。ただ、29 日に利益確定売りで反落すると、30 日も小幅に続落して連休前の取引を終えた。今週は 5 日に 7 月の貿易統計が発表されるほか、中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。貿易収支が 17 年 5 月以来の低い水準に落ち込んだ前月から回復すれば株式相場の支援材料になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。